

## 実施一週間後の報告(七月十三日)

『(前略)その後の愛子の“漢字ゲーム”の様子を報告させていただきます。

最初やる前は、一週間に一字でも読めるようになってくれればよい、と思っていました。ところが、先生のおっしゃる通り、毎日、一字ずつ確実に覚えて、読むようになりますので、家内ともども驚いたり喜んだりしております。

私の両親、家内の両親ともども、交通事故により脳損傷を受けて知恵遅れになっている愛子を非常に心配してくれていますので、家での“漢字ゲーム”の様子を見せました。すると、愛子がすらすらと間違わずに漢字を読みますので、どうしてむずかしい漢字が読めるのか、不思議がっています。

毎日、三セットないし五セットやっていますが、今日などは、第一セットの二度目の時に、“舟”を「ふね」と読みました。今日までに読めるようになりました字は、“目、手、足、耳、犬、猫、雨、鶏、舟”の九字です。

この中で、“耳”と“目”を、最初の四日ぐらい、時々間違えましたが、現在は間違わずに読みます。

毎夜、家内と、明日はどの字を教えようかと、話し合っ決めてるのが楽しみです。愛子もいやがらずにやっています。何だか目の前が急に明

るくなったような気持で、先が楽しみになり、非常に嬉しく思っております。

ドーマンさんの本を読むまで、石井先生を知らなかったことを残念に思います。もう少し早い時期から、愛子に漢字を教えていたら、どんな変化を起こしていただろうかと、また、現在はきっと沢山の漢字が読めているだろうとかを、家内と話し合っています。(以下略)』

この手紙は、七月十三日の夜書かれたもので、私の訪問した七月六日から、ちょうど一週間後のものです。この手紙で、この一週間に、毎日一字ずつ、七字の漢字を覚え、それ以前に覚えた二字と合わせて、九字になったことが報告されています。

この学習は、“遊び”もしくは“ゲーム”の名で呼ばれているように、楽しくやれて、頭をまったく苦しめることなく自然に漢字が覚えられるものであることを、この手紙から察知して頂きたいと思います。くどいようですが、一年かかってひらがなが一字も覚えなかった愛子ちゃんが、毎日一字ずつ、七日間に七字覚えたのです。これが何よりの証拠ではないでしょうか。

幼児、とりわけ脳障害のある幼児には、楽しんでやれるような学習でなければ、とても長続きしません。一時的にどんなに効果があっても、長続きしないようでは、タカが知れています。だから、無理せず、楽しい雰囲気を保つことが、脳障害児の学習には大切なのです。